

『シャケ弁当』 作…ポチ子

とある高校の教室、昼食の時間。

弁当に入っているシャケを箸で挟みながら、生徒1が呟く。

生徒1 「なあ、シャケよ。」

生徒2 「なんか、始まったよ。」

生徒1 「お前はこんなに魅力的なのに、どうして皆、お前を見てくれないんだろう。」

生徒3 「十分見てもらえてるだろ、少なくともお前にはな。」

生徒1 「おかしいと思わないかい、シャケよ。お前の味はとても魅力的だ。朝ごはん、おにぎり、お茶漬け、弁当、全てにおいてお前の存在は欠かせない。なのに、お前が主役として扱われることが少なすぎる！私は、それが悲しくてしょうがないんだ。」

生徒2 「その心は？」

生徒1 「弁当で、おかずがほぼシャケだけでも関わらず、なぜか名前は幕の内弁当。シューマイが入っていたら、たとえばコロッケが8割の弁当でも、シューマイ弁当と名を称せるのに、どうしてシャケ弁当と言わない

んだ。」

生徒3 「なんとなくだろ。幕の内の方が馴染みがあるし、豪華そうだろ。」

生徒1 「いいや、違う。低俗な市民どもはシャケの力を見くびっているのだ。シャケ弁当？なんか貧相な感じーと、シャケの名を使うの躊躇う。なんて愚かな・・・」

生徒2 「さっきからどういうキャラ設定なの、あんた。」

生徒1 「私は、シャケを認めようとしなない愚か者どもを成敗し、必ずしや、シャケが弁当の天下をとれる時代を作って見せる！」

生徒2 「ねえ、ちょっと責任取ってよね。あんたが「弁当におかずシャケだけとか、かわいそすぎワロタw」とか言うから、よくわかんないスイッチ入ったんだからね。」

生徒3 「そりゃ、今、令和だぞ。弁当がシャケ一切れと日の丸ご飯だったら笑うだろ。」

生徒1 「この程よい塩味、皮の香ばしい匂い。お前さえいれば、他には何も必要ない。そうは思わないかい、シャケよ。」

生徒2 「ほら、めっちゃめっちゃ気にしてるじゃん。」

生徒3 「しょうがねーな。はい、唐揚げ。」

生徒1 「え！まじ、ありがとう！」

生徒2 「さっきまでのキャラどこ行ったんだよ。．．．はあ、

私の卵焼きもあげる。」

生徒1 「最高かよ！」

生徒2 「で、なんで今日の弁当はそんなことになってんのよ。」

生徒1 「いやー、昨日母ちゃんと喧嘩してさ。今日の朝、不

機嫌だなーと思ったら、コレ。」

生徒2 「前、喧嘩した時は、弁当箱に梅干し一つだったから

まだましなんじゃない？」

生徒1 「そうかなー。ってか買って箸だけで売ってるっけ？」

生徒2 「まあ売ってるんじゃない？」

生徒1 「んじゃ買ってくるわ。弁当に入ってた箸、トツポだ

ったんだよね。」

生徒3 「母ちゃん、極悪人じゃん。いってらー。」

— 終わり —